

アサリは底土の泥分（0.074mm以下の粒子）が50%以上でも生息可能と言われており、今回調査した各地点はいずれもこの値を大きく下回っており、アサリの生息には、問題はないと思われた。

(2) 全硫化物

全硫化物の測定結果を表2に示す

調査4地点のうち最も低い値を示したのは非客土区のst.3で、逆に値の最も高い値を示したのは非客土区のst.1であった。客土区では、st.2が低くst.4が高かった。

表2 全硫化物測定結果(mg/g)

st.1	st.2	st.3	st.4
0.188	0.083	0.046	0.165

(st.2、4が客土区)

客土区と非客土区の間で値の違いは見られなかった。

各地点とも水産環境水質基準である0.2mg/gは下回っていた。

(3) COD

CODの測定結果を表3に示す。

調査4地点のうち最も高かったのは客土区のst.4であり、また最も低かったのも同じ客土区のst.2であった。

表3 COD測定結果(mg/g)

st.1	st.2	st.3	st.4
5.635	2.532	7.961	9.675

(st.2、4は客土区)

客土区と非客土区での違いは見られなかった

なお水産環境水質基準では底質のCODは20mg/g以下とされ、各地点ともこれを下回っていた。

(4) アサリ現存量

10月11日に各調査地点で採取したアサリの個体数と殻長組成を図2に示す。

各調査地点で採取されたアサリの個体数を1㎡あたりに換算すると、st.1が592個体、st.2が1,632個体、st.3が16個体、st.4が536個体となり、客土区(st.2、st.4)と非客土区(st.1、st.3)で比較した場合、客土区の方がアサリの生息数が多い傾向が見られた。最も数が多かったst.2では、殻長12mm～20mm区間のサイズが突出して多くなっていた。またst.3では、生息数は極めてわずか、稚貝の発生も見られなかった。

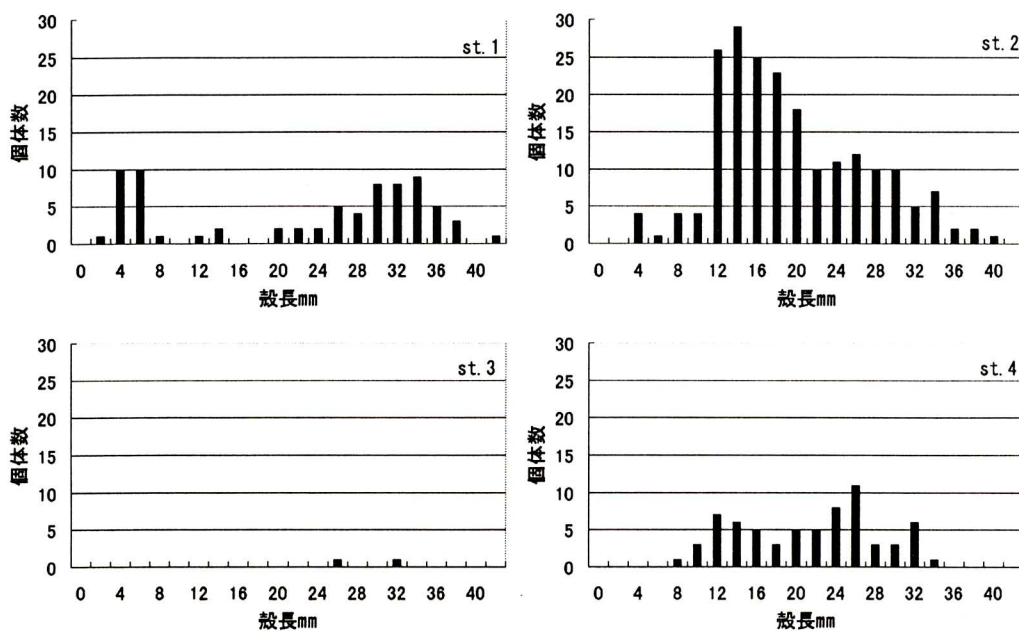


図2 調査地点別アサリ殻長組成